

海外渡航歴のない慢性下痢症患者から白糖非分解性 *Vibrio cholerae* を検出した一例

◎藤岡 愛海¹⁾、佐藤 史明¹⁾、松井 建二郎¹⁾、稲垣 薫乃¹⁾、東本 祐紀²⁾、星 雅人²⁾
藤田医科大学病院¹⁾、藤田医科大学²⁾

【はじめに】コレラは *Vibrio cholerae* O1 及び O139 のうちコレラ毒素産生性株で汚染された水や食物を原因とする経口感染症で、「米のとぎ汁様」と形容される白色ないしは灰白色の水様便を主症状とする。また、*V. cholerae* は白糖を分解するという生化学的特徴を有することから、TCBS 寒天培地を用いて分離培養を行う。今回我々は、海外渡航歴のない慢性下痢症患者便検体から白糖非分解性の *V. cholerae* を検出したので報告する。

【症例】84 歳男性。渡航歴はなし。入院約一ヶ月前から頻回にトイレに行くようになり、水様便が持続していた。入院二週間前からトイレに行く回数が増え、食事もごく少量となっていた。その後食思不振、体動不動となり救急搬送された。培養結果によりピブライシン単回投与を行い、下痢症状は改善を認めた。その後の培養検査からも *V. cholerae* は確認されていない。喫食歴、海外渡航歴から感染に至る明らかなルートは特定できなかった。

【微生物学的検査】患者下痢便から TCBS 寒天培地へ一晩培養後、培地色の小型コロニーが発育した。本分離株を質

量分析装置 VITEK MS (バイオメリュウ・ジャパン) で同定した結果、*V. cholerae* となった。白糖分解能が同定結果と異なるためバイテック 2 GN 同定カード (バイオメリュウ・ジャパン) による同定を実施したが *V. cholerae* であった。追加検査として NaCl 加ペプトン水による好塩性試験では 0%、3% で発育を示した。以上より本分離株は白糖非分解性 *V. cholerae* であると結論づけた。

【考察】*V. cholerae* は白糖分解により TCBS 寒天培地に黄色で発育するが、本分離株は白糖非分解性の非典型的な生化学的性状を示す *V. cholerae* であった。ブラジル、バンガラディシュで白糖非分解性の *V. cholerae* が報告されている。このような非典型的な菌株は、検査フローによっては誤同定される可能性があるため、非典型的な性状を示すコレラ菌が存在するという事を念頭におき検査を実施する必要がある。また通常検査に加えて、適切な追加検査を実施することは、正確かつ迅速な結果報告が可能で治療に寄与することができる。(連絡先 ami.fujioka@fujita-hu.ac.jp - 0562-93-2304)